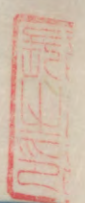




以上、簡単でございますが、答弁にかえさせていただきます。
○建設課長（黒田 登君） 答弁申し上げます。

私道の整備補助金の関係でございますけれども、私道整備に關するものが、四十六年度の十月一日に備付されておりますが、四十六年度、四十七年度におきましては、経費支出がございまして、実績はゼロでございます。四十八年度におきまして、中米町の青梅信用金庫の横倉シヨビグ、セターのほうへ行きます。私道に對しまして補助要請がございまして、たので、十カ年以内の補助をいたしております。なおこの整備補助率でございますが、十分の七以内というところでございまして、工事費に對する七〇％を補助してあります。なお四十九年度の予算でございますけれども、一応現在のところ、私道整備の申し込みがございせんけれども、一応前年度並みに三十万円を計上させていただきます。

次に、緊急道路の關係でございますが、緊急道路につきましては、一応三本の路線を計画いたしております。路



線の内訳でございますが、市道一、一三四号線、ひよとから多摩川河原区画整理区域内に通じます。道路の新設工事を計画しております。さらに三の三号線、東福生駅の北側になります。一、三、一号から国道一六号線までの延長四百五十八米の道路のうち、工事でございます。三番目に市道一、一四号線、第三小学校の北側で二、一街路から国道十六号線のうち、工事、以上三本でございますが、なお建設委員会に一般道路を含めた事業の内容を提案するわけでございますが、ご決定をいただきますならば、今会期の最終日に図面を持ちまして資料を提出いたします。

○教育委員会学務課長（古谷 正夫君） 最初の予算の分の視聴覚教材の部分につきまして、ご説明させていただきます。

各教科列につきましては、当初予算の一億百五十万円でございますが、これは数は各学校のこの備品がある程度充実した、ということでもあります。それで備品類の主なものにつきましては、机や椅子等、それから技術につきましては木工、金工、木工、木工

充実させていた方がいいと思います。

○教育長（町田 倍二君） それでは私からは特殊学級の関係につき、
まして申し上げます。小学校につきましては三年になります
が、あかげさまで立派な教育がなっております。中学校に
つぎましてはたいへん設置がおくれて申しわけなく思ってお
ります。これにつぎましては、現在特殊学級の運営委員
会におきまして、設置につきまして検討中でございますが、
従来の中学校の特殊の学級につきましては、職業課程の
学級を作るということで、中学校を終えますとそういう過
程に進んでいます。最近になりましてぜひとも父兄から高
校に進学させたいという声が非常に強いです。したがってど
ういう形の学級を作った方がいいかということも検討してあるわけ
でございますが、ほうぼうにおきまして、も特殊学級運営委
員会は懸命にいたしております。十分検討はしまして、な
るべく中学にも早急に設置をしますより、今後とも努力して
いきたいと思います。

○助役（條崎 俊夫君） 公共事業費の前年度対比の伸び率につ
いてお答え申し上げます。

昭和四十八年度の公共事業費の総額が十四億九千三十三
千円、来年度の公共事業費の総額が十八億一千五百八十一
千円、この伸び率を計算しますと三・八%、次が六とな
ります。それでこの昭和四十九年度当初予算資料四ペー
ジに二・九%と切り上げて出ておりますので、そのほうを公式
統一見解ということにさせていただきますと思います。慎んで訂正
を申し上げます。

○十七番（関 米吉君） まの緊急道路整備費のことについて、おいて今

会期中に資料を出してお話し。その他の一般道路の分も含めて
資料を出すということでございますが、私もさきお長の施
政方針を引用いたしました。高い整備費を要しておる、いまの
この主要道路の整備率はどのくらいに達しているか、含めてちよ
つとお知らせしたいと思いますが、それから学校教育振興
費、これは生徒ひとり当たり小中どのくらいの額になります

か、それから最後に、これは税務課長に悪い質問になるかも知れませんが、私はちょっとたばこ消費税の伸びが、これは見解の相違、それから専門家がどう思うかという形になろうかと思ひますが、ちよと私は高過ぎるような気がするんですよ、ずつと見まして、とうのはほろの市民税等の伸びというものは、やはり引きさいて、ままのを見て納得がいけると思うんですが、けれども、たばこ消費税については、ちよと多いよりは感じでしたわけなんですか、この点については別に再答弁は必要としておらなければいけません、私はそういう感じをもつておるというこゝと一つお聞きいただきたいと思います。以上二点についてお願ひします。

○建設課長(黒田 登君) 道路の整備率でございますけれども、四十八年三月現在までの道路台帳を整備いたしました、舗装率を積算いたしました数字は七十九%でございます。

○教育委員会学務課長(古谷 正次君) 振興費の全体の額でございますが、一人当たりにつきましては小学校につきましては四十

三百四十円、中学校につきましては六十円です。

○二十番(宮沢 良一君) ニ、三お尋ねしたいと思ひますけれども、百二十ページの夏季休暇水泳指導員報償費について、まず最初にお尋ねします。さきの昭和四十八年度一般会計予算を

百二十万円の予算が計上されたわけですが、補正七号で四十万円の減額があらわれたわけですか。したがって支出は八十万円ということですが、

それにもかかわらず、四十九年度の一般会計予算では百九十二万円、倍以上の予算が組まれてゐるわけですが、この点についてお聞きしたいと思ひます。それから百十九ページの青少年問題協議会費

ですが、一般管理費が四十三万四千円、都府支出金が五十一万七千円、合わせて九十五万四千円ですが、協議会の運営について

どのようなふうに行われておられるのかお聞きしたいと思ひます。それから、八十五ページの商工業振興費のことでお伺ひしたいんですが、

現在福生市の企業は、中小企業の精神的な努力が多大であるということから、それなりに評価してあるんじゃないかと思ひます。今後の商工業者の育成についてどのような振興策を

考えておられるのか。この三つの点を一つお聞きしたいと思ひます。
○教育委員会社会教育課長（小野 光朗君） ただいまご質問にば
きましたことについてご答弁いたします。

昭和八年度当初でございますが百二十万円の報償費として組
んでございました。それが夏季休業中のプールの指導でございま
すけれど、一応中学校のものでございまして、二校分をやるという
前程でございまして当初組んでございます。それで現実によつては
だかなった場合に補正するなり、一校二十万円の二校分、それ
から昭和九年度分につきましては、三七七万六千八百七十九円
でその分だけお持ちになつて一応やるという前程のもとにやつていきな
いと思ひます。

引き続きまして青少年協の問題でございます。青少年協という
問題につきましては、青年の心理とか、少年の心理とかいう問題
かやはり非常に大きな問題がある。要するに、社会的環境
とか家庭環境とか、学校の環境がございまして、そういう中
で青年とか、少年の心理というものを分析しますと、やはり不

安定であり現実的であるとか、その意義に従うとか、非常
に大きな外部環境によつて左右される青少年であり不安な
時期だと思ひます。そういう人たちに對して、お全体として
どう、うふうに取り組むかということが青少年協だと思ひます。青
少協につきましては、過去昭和二十三年当時から内閣のほう
で衆参国会でもって決議がございまして、青少年の非行化
防止というふうな問題から発生したのが青少年協でございまして、その
性格は市の青少年問題協議会というものがございまして、これが
昭和三十一年に設立だと承知してございます。その内容というのは各
市長部局、教育部局、警察部局が一応青少年の非行
防止というところをどうしたうにかというふうなことを協議、審議
するのが青少年協問題というところでございまして、この所管と、う
のは国の場合では内閣の総理府に属してございます。それを
教育委員会が、社会教育というところで取り上げておりました。一
応処理してありますけれども、確かにご指摘のとおり協議
会でございまして、やはり各教育委員会でもたに行事、福祉

事務所でも行った行事、警察でも行った行事というふうなものの記録調整というふうなものが、青少協であり、そしてそれが今後審議したり、調査したりするものが青少協であるとすれば、実質的には確かにやっておりますけれども、現実には非常に回数もやっております。去年四月年の総会におきまして青少協問題の活動状況をご報告しておりますけれども、各二十八町会ごとくしましてそこにおいて広報とか非行防止のための巡回とかパトロール、お祭りの報道、七夕の報道とかいうことで、多数やっております。それらの地区協議会に対して補助金を市として、昨年度は二万円、本年度は二万三千円を予定して組んでおります。大体以上で、青少協の活動とか、考え方について申し上げました。

○経済課長（森田 進君） 自席からお話しをいたしましてご答弁させていただきます。

八十五ページの、商工業振興費の関連につきましてご答弁申し上げます。

おかげをもちまして市内の中小企業ににつきましては立派な商工会がございまして、商工会を中心にしていろいろ運営がなされておられるわけでございますが、この商工会につきましては、いまさら私が申し上げるまでもなく法律に基づきまして各市町村単位に設置されたものでございます。商工業者の総合的な産業発展をはかると、そういうふうなことが商工会の使命でございます。そういうもので、特に中小企業者を重点にした施策というものを金中小企業者というもののスポーツを当てて行なっているものが商工会でございまして、それだけに非常に公共性が強い団体であるということが言われてゐるわけであります。また、この商工会につきましては、法律的に制限がございまして、特定の政党に対するいわゆる活動の制限であるとか、特定の企業者に対する制限であるとか、それから会員の確保であるとか、こういうことによりまして非常に公共性が強いということと同時にやはり財政基盤が弱いか、そういうことでございまして、商工会の基本的な財源といたしましては、国あるいは

地方公共団体、それから商工会を組織している会員の会費等がそういうふうなものが基本的な財源となっているわけでございます。現在の商工会についての現状というもののについて申し上げますと、職員については六名ございまして、そのうちの二名が経営指導員でございます。あと二名が補助員でございます。市名の中小企業者につきましては、私どもの調べによると一千五百八十名、この中で特に、小規模企業者というものは一千三百二十一名ということになってございまして、理想的にはこの経営指導員というものを十分に行なうということが中小企業の振興につながるものだと思いますが、理想的にこれを考えますと経営指導員については大体五名、それから経営指導補助員については二名、それの編成が非常に理想であらうといわれて考えております。国の基準に基づきます経営指導員の補助員の数については四名、それから補助員が二名、そのほかに一般職員というふうな形に国の基準はなっているわけでございますが、

今年度の国の中小企業振興策をみますと、ほかの予算については非常に抑制されている予算でございますが、中小企業者については非常に昨年来を上回る大幅な予算を計上してございまして、ご案内のように昨年設置されました、小規模事業経営改善資金等についても昨年は三年ごとの源資金をもって運営したわけでございますが、一千二百億円に伸び、それからまた経営指導員等についても、できるだけ国の基準に近づけたもの、助成等を非常に予算措置置をして考えてあるようにございまして、福生市の商工会についても、そういうふうなものの中で一名の増員については認められると、そういうふうな聞きおよんでございます。市の商工会に対する考え方でもございまして、一応性格が非常に公共性が強いという判断からこの補助金としまして間接的に市内の中小企業者の就職希望者の振興をはかっている、このように一応判断しているわけでございますが、市の補助金がなければそれだけ会員の負担がふえるかある、

これから都の支出金というものが、いかにあつてくれども、自衛官の募集委託金一万五千円入つてゐてくれども、これを實際福生でどのくらいの中し込み者が福生にゐるか実績をお聞きしたいと思ひます。わかる範囲でお願いします。

それから歳出のすけいども、これもやはり一つお聞きしたい。この決算のときもお聞きしたわけですけれども、一般会計予算にあつて各いろいろな建設費を組まれてゐるわけですけれども、これによつて市の超過負担によつてお知らせ願つた、それからさらに、全体によつて需用費がふえたいといふわけです。六二二%載つてありますけれども、これは経済情勢の中をこのようになつてゐるんだと考へられるわけですけれども、主なもの、単価がどのくらいアップになつてゐるかお聞きしたい。それからやはり、生活安定対策本部が設置されたわけですけれども、これも具体的な施策というものがこの予算のどのういふものがそれに当るのか、また今後どのように考へてゐるのか、その辺の施策によつてお聞きしたい。それからやはりそれとも

関連すると思ふんですけれども、昨年私の一般質問のときにもお聞きしたわけですけれども、産直の問題によつていろいろ検討したといふことがあつたわけですけれども、予算上にはそれが見当たらないと感ずるわけですけれども、それの見通し等が現時点でどのようなふうなつてゐるかお聞きしたいと思ひます。それから七十四ページの公害対策費ですが、都の支出金が五百万円と、一般財源が九百八十三万円というところなんですけれども、實際にいきますと人件費だけでこの支出金までくんでゐるわけですけれども、職員の全体をみると一名増となつてゐるようによつて見受けるわけですけれども、はたしてこれだけの人員で今回デジタル騒音計も購入するわけですけれども、ほんとうに使つていけるのかどうかといふことと。昨年もおれうく巡回測定車というふうなものも購入したと思ふんですけれども、それが一おう効果的に使われているのか体勢としてほんとにだいたいどうぶのかどうか、その辺をお聞きしたいと思ひます。それから八十一ページの労働費の中で、全体的に需用費が伸びてゐるわけですけれども、この労働費

だけに、関係しては、労働費の需用費が昨年は十六万円、今回は十
三万円と、特に暖房用燃料費が三万円から二万円に減額になって
いるわけですから、この辺のところ単価が上がっている中では、た
して、だいたいふたつかどうかというところをお聞きしたい、それから
先ほども、関さんのほうからも出たのを、すけれども、市道改良工事
それから資料として出たんですけれども、それには交通安全施
設等の予算もかなり大幅に組まれているわけですから、すけれども
この資料の中には入れてほしいと思います。それから九十六ペ
ージの住宅管理費の中で委託料百八万円、市営住宅用地
測量委託料があるんですけれども、ここに出てくるんで、その必
要があるかどうかの目的を持てていると思うんですけれども、その
点と、それから百四ページと百五ページで、これは小学校の学
校管理費と中学校の学校管理と、両方関係するわけです
けれども、今回初めて校医報酬で内科と歯科へ、身障料
が加わったわけですけれども、眼科の見通しはどうなのか、お聞き
したいと思います。それから百五ページ、学校給食費なんです

すけれども、新たにパンの遠距離輸送料が盛り込まれたわけだ
けれども、セラーの環境の問題なんですけれども、非常に小さ
隣接して、環境も悪いということと、昨年も批判があったと思う
んですけれども、それと、もう一つの声が相当あがっているという
ところ、お聞きしたいのかどうか、お聞きしたいと思います。それ
から百九ページ、ここで図書購入費として五百万円、これは
昨年と同じなんですけれども、とにかくこれは、補正もあつと思
うんですけれども、本の単価が相当上がっていると思うんです。そ
ういう点で、単価が上がれば、購入する冊数は当然減ってくる
わけなんですけれども、やはり都からの補助を、みましても、これ
についてはやはり相当使用期間もあるでしょうし、ふやしていかな
きゃならないと思うんですけれども、その辺で、どのくらい買えるか、
また今後これを増加していく方向にあるのかどうか、お聞きしたい
と思います。それから百二十四ページの公債費なんですけれども、
これは年々一般財源からの繰り出しがふえてきているわけなんです

けれども、その辺でほんとうに見積りとして公債費をどの程度に
うたいようぶのかという点があると思うんですが、その辺の
ところをお聞きしたいと思ひます。今年も一般財源から一億四
千五百万円を内とかかり大きな額が出るようになるわけですか
けれども、そう、うふうふのとくらゐ認めるのか、これだけやってもだいど
うぶなのかというところをお聞きしたいと思ひます。それから最
後に、庁舎建設の基金が前年より始まっていると思うんですが、
けれども、今度の当初予算には載ってないんですけれども、は
たして、そのようものが、見積りされて今後その積立てをやる考
えがあるのかどうかお聞きしたいと思います。

○税務課長（島田 猛君） 松山議員さんのご質問にお答えいたし
ます。質問の内容は、基地交付金の対象資産について一般
並みに課税をした場合にどのくらいなるかと、うお尋ねますが
ご承知のように現在固定資産税関係の課税事務をやっております
まして、一般市民の方の固定資産についてまた課税標準がさだ
かでないません。したが、まして新年度のこの関係については、

積算をしておきたいと思います。

ご参考までに、四八年の関係で申し上げますと、四億二千百万
円ばかりの数字が出ました。この数字につきましては、基地交
付の直前に資料をもちまして自治省のほうにこれだけ出るか
う交付金をふやしていただきたいというふうな陳情をしておき
まして、その結果は四八年の何号補正をしたか補正をした
次第でございまして、内容はご承知かと思ひます。以上であり
ます。

○福祉事務所長（森田 猛君） ナページの弥生保育園の関係でござ
います。が、一応定員百二十名でございまして、申し込みと申します
か、指置の決定に對しまして、非常に子供の数が少ないわけに
ございます。これは弥生保育園に限らず、杉の子第二について
も言われるわけでございます。当初保育園を新しく造った場
合には、市のつくし保育園の場合もそうでございしますが、当初
はなかなか定員に達しないというのが実情でございします。昨年で
きまして杉の子第二保育園も少かり、ここで杉の子第二と弥生が